

地域社会における「高齢者サロン」の 体験学習をととした教育効果（その1）

立川かおり・鍋島恵美子・吉村浩美・馬場由美子・福元健志

西九州大学短期大学部 生活福祉学科

（平成 25 年 12 月 18 日受理）

Educational achievement through experiential learning in local community (part1)

Kaori TACHIKAWA, Emiko NABESHIMA, Hiromi YOSHIMURA,
Yumiko BABA, Takeshi FUKUMOTO

Department of Living and Welfare, Nishikyusyu University, Junior College

(Accepted December 18, 2012)

地域社会における「高齢者サロン」の 体験学習をととした教育効果（その1）

立川かおり・鍋島恵美子・吉村浩美・馬場由美子・福元健志

西九州大学短期大学部 生活福祉学科

（平成 25 年 12 月 18 日受理）

Educational achievement through experiential learning in local community (part1)

Kaori TACHIKAWA, Emiko NABESHIMA, Hiromi YOSHIMURA,
Yumiko BABA, Takeshi FUKUMOTO

Department of Living and Welfare, Nishikyusyu University, Junior College

（Accepted December 18, 2012）

Abstract

Department of Living and Welfare at Nishikyushu University Junior College has provided practical and preventive care technique courses and it has incorporated seminars and experiential learning into the courses. Regarding a local community, institution of higher education has been required to play an important role as our department was invited by Kouhoku town to participate its revitalization program in 2012. Therefore, students are enrolled in the program so that they are able to learn the current situation of Kouhoku town and its revitalization planning. Currently, students visit social gathering for elderly people in Kouhoku town. This article reports students' educational achievement through the activity.

Key Word : Professional Care Worker 介護福祉士
Preventive Care 介護予防
Depopulated area 過疎化地域
Practical Care Skills 介護実践力
Social Gathering for Elderly People 高齢者サロン

地域社会における「高齢者サロン」の 体験学習をととした教育効果（その1）

1. はじめに

近年、世界でも屈指の長寿国となったわが国では、高齢者人口の増加と並行して急速な少子化が進み、少子高齢社会となっている。今後、「団塊の世代」が高齢者になることを考えると、ますます高齢化は進行し、介護サービスの需要の増加が予想され、要介護にならないための介護予防の充実が今以上に必要となる。さらに高齢者の生活様式や考え方、価値観が多様化するため、個別性に応じた個別ケアが求められてくる。一人暮らしの高齢者が安心して生活を継続するためには、生活援助とともに住まいと地域のネットワークの整備、地域ケアなどの対応も今後の課題となる。

特に、九州における地方の町村においては、若者の流出等により人口減少の県が多く、全国を上回る速度で高齢社会に向かっており、人口の構成が高齢者に偏っているという傾向にある。過疎化が進むことにより、空き店舗が増加し空洞化が進行している地域も多く、産業がなくなることにより税収は減少し、町は活気がなくなり、種々のサービスも悪くなっている。また、高齢者の単独世帯や夫婦のみ世帯は増加し、買い物難民や老老介護、高齢者の孤独死等が増えており、過疎化地域の問題は深刻な状況である。

国としては、過疎化問題の対策として、地域活性化への取り組みを総合的かつ一体的に推進する施策を講じており、国土交通省の「平成24年度集落地域における生活支援機能の拠点化、広域連携による持続的な地域づくりに関する調査」によると、過疎地域などの集落では、人口減少や高齢化が進む中、商店や診療所が閉鎖するなど、日常生活に必要なサービスを受けることが困難になり、今後、集落で暮らし続けていくことが危ぶまれる状況が全国各地で一層拡大していくことが懸念されるため、有識者により「小さな拠点」の形成を通じた持続可能な集落づくりについて調査検討を行い、「集落地域の大きな安心と希望をつなぐ『小さな拠点』づくりガイドブック」をとりまとめている。また、内閣府は、平成24年度に「特定地域再生計画策定事業費補助金事業」を募集し、佐賀県では杵島郡江北町が「上小田地区における空き家・空き店舗再生調査事業～人が変わること社会が変わっていく仕組みづくり～」事業として応募され、選定された。そこで、学生の柔軟な考えやアイデアが欲しいと西九州大学短期大学部（以下本学）に、この事業への学生の参加依頼があった。

本学の生活福祉学科で（以下本学科）では、介護現場に必要な「温かさ」「優しさ」を基盤とした教育を行っ

ており、社会の多様化した介護ニーズに対応するため、豊かな人間性を身につけ、福祉や介護の専門的知識や技術を幅広く習得し、高い専門性と実践力のある介護福祉士を養成することを教育の目的としている。特に、平成17年の介護保険制度改正では、予防重視型に転換されたことから、介護福祉士には介護予防のスキルも必要であると考え、科目の中に「介護予防支援学」を設け、学長認定の「介護予防支援員」の資格を付与するようにしている。また、授業には体験学習を多く取り入れ、実際に高齢者や障がい者と触れ合うことにより、高齢者や障がい者をより深く理解し、介護予防の重要性の理解や豊かな人間性と介護実践力の習得を目指している。

このようなことから、学生が江北町の地域再生事業に参加することは、過疎化地域の高齢者の実態や町の元気高齢者や介護予防事業対策など、実際に見たり体験することができ、学生にとって多くの学びがあるのではないかと考えた。

2. 江北町について

1) 江北町の現状

江北町は、佐賀県のほぼ中央に位置している。総面積 24.48 K m²、人口 9,688 人（男 4,577 人、女 5,111 人）全国的な少子高齢化の中で、江北町の出生率は全国平均よりもやや高く、高齢化率も高く先行している。更に、高齢者世帯数は昭和 60 年に 218 世帯から、平成 17 年には、453 世帯に倍増し、そのなかでもほぼ半数は単身世帯であるため、今後の介護の問題が益々顕在化するものと思われる。現に要介護、要支援にある方の人数は、介護 1 の人や要支援 1 の人の増加が顕著であるが、これは、同時に老人医療費や介護給付費の伸びにつながり、各保険財政を圧迫し、健全財政の維持が急務となっている。

2) 上小田地区の現状

①人口や社会経済の状況

上小田地区は、昭和 18 年の杵島炭鉱五坑の開削以来、石炭産業の隆盛に伴い、昭和 27 年の町制施行時には地区の人口が 6,598 人と町の総人口 15,278 人に対し 43.2% を占めていたが、現在（平成 24 年 4 月 1 日）では地区の人口が 2,085 人となっており、町の総人口 9,766 人に占める割合は 21.3% まで減少している。高齢化率 30.9%、年少者率 10.9% はいずれも町内の地区でワーストまた、この地区は炭鉱の最盛期には映画館などの娯楽施設や商店街も数多く立地し、賑わいを見せていたが、人口の減少とともにその数も減少し、空き家・空き店舗等が増加しているため高齢者の買い物にも不便をきたしている状況である。さらに、商店街では少子高齢化に伴う後継者不足にも悩んでいる現状である。

②地域課題

少子高齢化の進展により独居老人の増加が目立ち始めるとともに、高齢者の活動の場も減少しつつある状況である。また、地区の人口が減少していることで地域コミュニティも希薄になり、交流の場の提供・生きがいがづくりが必要となってきた。また、子どもの数も減少しており子育て中の保護者の交流の場もなくなってきた。とともに、夫婦共稼ぎ等が増加することで放課後児童の居場所の必要性も出てきている。

さらに、人口減少にあわせて商店の数も減少しており、買い物弱者が増加している状況であり、買い物の新しい仕組づくりが必要となってきた。

③地域資源

地区においては、空き家や空き店舗が増加しつつあるのが現状。しかしながら、一見、この地区にとってマイナス要素として見られがちな空き家や空き店舗なども、その間取りや利用条件などを変えることによって、それが地域の活動拠点として生まれ変わる可能性も出てくる。また、空き家再生のやり方によっては子育て世代の移住・定住にも繋がるものと考えられる。さらに、新しい買い物の仕組を構築してやることで、地区の生活環境の維持・向上に繋がるものと考えている。

3. 上小田地区の空き家・空き店舗再生調査業

平成 25 年 3 月、江北町より「上小田地区における空き家・空き店舗再生調査事業」の多様な住民サービス検証のため、スタッフに学生を登用し、短大生との連携による事業展開を依頼された。事業の概要は、「平成 24 年度特定地域再生計画策定事業」申請書より記載する。

1) 事業の概要

上小田地区は少子高齢化の進展とともに人口も減少し、空き家や空き店舗なども散在してきている状況で、地域の活気も減退しつつある。しかしながら、一見、この地区にとってマイナス要素として見られがちな空き家や空き店舗なども、その間取りや利用条件などを変えることによって、それらが地域の活動拠点として生まれ変わる可能性も出てくる。今回の事業では、「人が変わることによって社会が変わっていく」を合言葉に“人”と“ひと”との繋がり、“人”と“社会”との繋がりを第一と考え、地区の空き家や空き店舗などを活用した複合的な住民サービスを行うことで、地域社会から信頼される居場所・仕組づくりの創造と上小田地区への子育て世代の定住を促進していく。その手段として、空き家・空き店舗を活用した高齢者サロン、子育てママのサロン、放課後児童

塾の開設に伴う利用状況と運営に関する調査、買い物弱者のための新しい買い物の仕組づくりの調査、空き家への移住体験を実施することによる利用者の意識調査などを実施することで、この地区の生活環境の維持・向上が図られると考え、その検証を行うものである。

また、検証には外部（よそ者）の視点と若者の柔軟な発想を地域再生の“力”としたいと考え、高校生や大学生などの外部組織と連携して事業を行う。少子高齢化の問題や空き家・空き店舗問題と商店の後継者不足問題などが同時に発生している状況下で先送りできない地域課題と捉え、事業継続が可能な計画づくりを目指す。

2) 事業の基本方針

地域の課題を解決するために、新たな施設を整備するのではなく、地区の空き家や空き店舗を再生・活用することによる多様な住民サービスの提供を検証する。

高齢者の交流の場の提供・生きがいがづくりについては、高齢者サロンを開設することで、どのくらいの利用者があるのか、どのような活動を希望されているのか、普段の生活においてどのような不安があるのかなどの情報の収集・分析を行う。

子育てママさんの交流の場づくりについては、子育てサロンを開設することで、その利用状況やどのような活動を希望されているのか、育児にどのような不安があるのかなどの情報の収集・分析を行う。放課後児童の居場所づくりについては、放課後児童塾を開設し、利用児童の学年構成や活動内容などの情報の収集・分析を行う。

また、買い物弱者対策として、昔ながらの御用聞きや行商の復活といった新たな仕組づくり構築のため、実際に御用聞きや行商を試験的に実施することで、その効果と課題等の把握に努める。さらに、空き家バンク整備により、移住希望者への情報提供と再生空き家を活用した子育て世代への移住・定住体験ツアーなどを実施し、持家志向調査、生活環境調査を行うことで住環境課題の解決策を探る。

このような地域に求められている多様なサービスを空き家・空き店舗を再生し、複合拠点として活用することでモデルケース化を図る。検証後の翌年度以降には、空き家再生塾、空き家での婚活イベント、高齢者と子どもとの世代を超えた交流、独居老人への配食サービス、子どもへの伝統芸能継承などの事業も行う予定。

3) 検証事業の内容

検証事業については、申請書の事業概要の内容説明書より、学生に関連ある事業について記載する。

「検証結果を基に空き家・空き店舗を活用した多様なサービスを選定」の項目の中から

①買物や通院のついでに気軽に立ち寄れる寄居所の開設

(空き家・空き店舗再生【高齢者の生きがいづくり】)

ア. 高齢者サロンを開設し、利用状況や希望する活動などの把握に努める。

イ. 翌年度以降には、子どもたちとの世代間交流事業、独居老人への配食サービスなどの実施を予定。

②空き店舗を活用した新しい買い物の仕組づくりと雇用創出(空き店舗再生・【生活支援・雇用創出・学生の活用】)

ア. 昔ながらの御用聞きや行商を試験的に実施することにより、その効果と課題等の把握に努める。

イ. このような新しい買い物の仕組を構築することで、新たなコミュニティビジネスの創出を模索。

ウ. 地区の再生と活性化を図るとともに生活環境の維持・改善を図るための計画を策定

③上小田地区振興委員会において、事業検証報告を基に、空き家・空き店舗再生の活用が可能な地域課題とその解決策をまとめて、地域再生計画を策定。

④翌年度以降の事業計画としては、活動拠点としての空き家・空き店舗の改修や総務省の支援制度である地域おこし協力隊の活用や外部専門家(アドバイザー事業)の活用によるソフト事業も予定しており、事業継続が可能な計画づくりを目指していくもの。

4. 学生参加による江北町の事業検証の実施と結果

1) 事業検証の参加状況

日 程：平成 25 年 3 月 4 日から 8 日 (5 日間)

スタッフ：江北町総務企画課職員 3 名、西九州大学短期大学部講師等 5 名・学生 17 名

協 力 者：教員 5 名、学生 17 名 (生活福祉学科:10 名・幼児保育学科：7 名)

参 加 者：高齢者サロン (9 地区：69 名)、ママサロン (5 組：10 名)、放課後保育 (小学生：11 名)

2) 生活福祉学科学生の体験学習内容

本学科の学生が参加した内容のみ記載する。

①高齢者サロン・・・10:00～16:00 [講演・体操・オセロ・iPad 体験・話し相手]

②買い物支援・・・10:00～16:00 [注文を受けて買い物を代行届ける・ふれあい]

③アンケートの集計および分析・役場職員との意見交換

3) 事業検証(生活福祉学科学生の体験学習)の様子

①高齢者サロン[講演・体操・オセロ・iPad 体験・話し相手]

午前中は上小田地区の高齢者の皆様に公民館にお集ま

りいただき、小田地区の思い出話、命についての話や食育の話などの講話を聞いた。その後、西九州大学短期大学の学生と世代間交流を行い、オセロや将棋などのゲームや iPad など余暇時間を楽しんでいた。



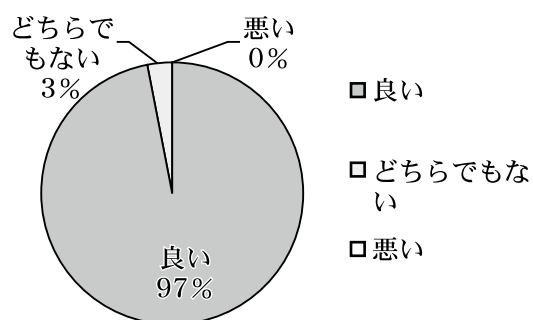
②買い物支援[注文を受けて買い物を代行届ける・ふれあい]地区の生活環境の維持・向上に向けた新しい買い物の仕組づくりのため、昔ながらの御用聞きの実施を行った。高齢者サロンに参加しながら買い物の必要な方に対し品物をお聞きし、購入し、責任を持って手渡した。



③アンケートの集計および分析・役場職員との意見交換

特定地域再生計画策定に係る事業検証結果より高齢者関連について記載する。

《参加高齢者へのアンケート結果》



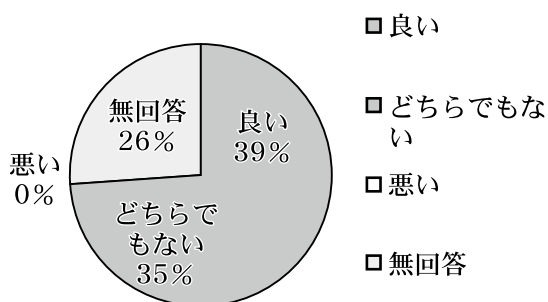
《結果》

高齢者サロンの開設に良いと回答された方は、97%であった。

《自由記述》

・i-pad が面白かった。
・体操があつてよかった。しかし、寒かった。

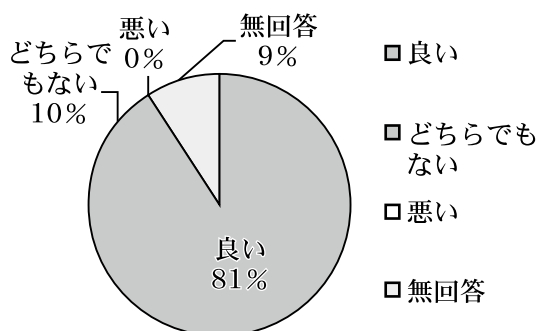
図1 高齢者サロンの開設について



《結果》

今回参加された方は、お元気な高齢者だったため、買物の需要が少なかった。自分が買い物をするお店が決まっていたり、代行サービスが行われるお店では、納得されなかったことも結果の要因になったようだった。

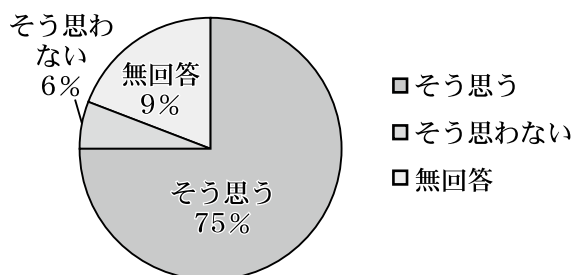
図2 学生等による買い物代行サービスについて



《結果》

学生との交流に関しては、81%の方が良いと回答されている。

図3 地域外の方々（学生など）との交流について



《結果》

来年以降も学生との交流を希望されている方が75%であった。不定的な回答は少ない。

図4 来年以降も地域外（学生など）の方々と交流したい

○空き家や空き店舗の活用方法について

- ・ 寄合所等の設置
- ・ 各世代のサークルなどに活用
- ・ 図書室（コーナー） など

○今後、上小田地区で取り組んでほしい行事など

- ・ 伝統芸能などを開催
- ・ 体験教室などのイベントの開催
- ・ もっとお店がほしい
- ・ 昔の歌や踊り
- ・ お祭り
- ・ 月に1回くらいは定期的なイベントを開催してほしい

《西九州大学短期大学部の学生へのアンケート結果》

①高齢者向けサロンの開設について

- ・ 参加学生全員（担当10名）がやりがいを感じている。

②買い物代行サービスについて

- ・ やりがいについては、担当学生の半数にとどまった
- ・ 今回、参加された高齢者は元気な方が多く、まだ自分で買い物に行けることでサービスの利用がなかった

③地域外の視点や若者ならではの柔軟な発想を地域再生に活かすことについて

- ・ 学生サイドの意見としては、こういった取組をもっとやってほしいとのこと
- ・ 平成25年度以降も取組が必要であるし、実施されれば参加してみたい

④空き家や空き店舗の活用方法について

- ・ サロン（高齢者、子育て、子ども）
- ・ 地域の方たちが実施する各種教室
- ・ 家族間の交流スペース
- ・ 児童、生徒対象の合宿所
- ・ 高齢者と子どもたちの交流スペース
- ・ 企業との連携スペース

⑤上小田地区について感じたこと

○よいイメージ

- ・ コミュニティが強い
- ・ 人が温かく交流しやすい
- ・ どこか懐かしい

○悪いイメージ

- ・ 交通安全面での課題がある
- ・ 見通しが悪い
- ・ 環境面での課題がある

○その他

- ・ 坂が多い

- ・ 店が少ない

- ・ 店の品揃えが少ない

《総括》

高齢者支援については、高齢者の方々に一応満足していただき概ね理解を得た。（97％）。

しかしながら、実施する建物の改修、特にトイレと空調については早急に対処が必要である。一方、買い物支援については、交通手段及び実施方法等について検討する必要がある。また、仕組みづくりとともにソフト事業を誰がやっていくのかという組織づくりが重要となってくると思われる。学生との連携やNPOなどとの連携も視野に入れて今後、検討する必要がある。

5. 平成25年度の江北町地域再生事業に関する本学との「地域協働プロジェクト」に関するニーズ調査

平成25年5月、江北町と本学の全学科との協働連携の話が進む中、本学からは、今後地域の関与にあたっては、住民の信頼を得て、住民が満足する事業を展開できるようにしたいとの意見が出された。地域住民が本学に対し、どのような要望をお持ちなのか、住民の声をお聞きし、実践の内容に活かすためアンケート調査を行った。

1) 「西九州大学短期大学部地域協働プロジェクト調査」の実施

（平成25年7月5日付）

町内5か所の老人会と子育て教室および子どもセンターにて調査

【アンケート対象者】

■各地区老人会利用者	124名
■子ども座禅体験参加者	45名
■子育て教室等利用の保護者	21名

【アンケート対象者の年齢内訳】

○各地区老人会利用者

1. 50代	14名
2. 60代	75名
3. 70代	25名
4. 80代以上	11名

計 125名

○子ども座禅体験参加者および子育て教室等利用の保護者

1. 10代	45名（10代以下含む）
2. 20代	3名
3. 30代	12名
4. 40代	5名
5. 60代	1名

計 66名

【アンケート回答者の性別】

- | | |
|-------|------|
| 1. 男性 | 63名 |
| 2. 女性 | 127名 |

2) アンケート調査 (高齢者関連のみ抜粋する)

Q1 あなたが参加してみたいものは何ですか。

(複数回答可)

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. 座談会・若者との交流 | 105人 (85%) |
| 2. 講話・勉強会 (栄養・食事・健康・福祉・介護・子育て等) | 77人 (62%) |
| 3. イベント (昔ながらの行事：盆踊り、地区の運動会など) | 36人 (29%) |
| 4. その他 (子どもや若者などと一緒に家庭料理を作りたいなど) | 13人 (10%) |

Q2 講話・勉強会の内容として希望されるものすべてに○を付けてください。 (複数回答可)

《食事・栄養についての講話や実習関連》

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 1. 当地食材 (地産地消) を利用した料理教室 | 83人 (67%) |
| 2. 郷土料理研究 | 51人 (41%) |
| 3. 健康食教室 (ヘルシーメニュー、減塩食) | 44人 (35%) |
| 4. 食の安全・安心についての講話 (食品添加物など) | 40人 (32%) |
| 5. 子どものおやつ教室 | 18人 (15%) |
| 6. 離乳食教室 | 16人 (13%) |
| 7. その他 (学生との新商品開発など) | 6人 (5%) |

《健康・福祉・高齢者関連》

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1. 楽しいレクリエーション | 93人 (75%) |
| 2. 悪質商法について | 73人 (59%) |
| 3. 腰痛体操 | 58人 (47%) |
| 4. 救急法 | 41人 (33%) |
| 5. やさしい介護の方法 | 38人 (31%) |
| 6. 失禁体操 | 25人 (20%) |
| 7. その他 (災害時の避難方法や準備用品などの話など) | 4人 (3%) |

《学生との交流関連》

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 1. 学生とのレクリエーション | 77人 (62%) |
| 2. 学生によるマッサージ | 70人 (56%) |
| 3. 学生とのスポーツ (ゲートボール、グラウンドゴルフなど) | 61人 (49%) |
| 4. 学生との娯楽 (囲碁・将棋・トランプなど) | 60人 (48%) |

5. 学生との座談会 (若者の文化を知る)

47人 (38%)

6. 学生による買い物支援

26人 (21%)

《その他》

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 大学の公開講座の江北町での実施 | 83人 (67%) |
| 2. i-padの使い方 | 48人 (39%) |
| 3. パソコンの使い方 | 39人 (31%) |
| 4. たのしい英会話 | 14人 (11%) |
| 5. おもしろ化学大発見 (子どもと大人と一緒に楽しめる化学実験) | 12人 (10%) |

Q3 講話や交流はどのくらいの頻度の実施を希望されますか。

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 月に1回 | 116人 (94%) |
| 2. 月に2回 | 63人 (51%) |
| 3. 年に4～5回 | 28人 (23%) |
| 4. その他 (学生が長期休暇中の時など) | 2人 (2%) |
| 5. 望まない | 0人 (0%) |

Q4 講話や交流はどの時間を希望されますか。

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 10:00～12:00 | 108人 (87%) |
| 2. 13:00～15:00 | 57人 (46%) |
| 3. 10:00～15:00 | 15人 (12%) |
| 4. 15:00～17:00 | 5人 (4%) |
| 5. 15:00～10:00 (宿泊) | 5人 (4%) |
| 6. その他 (なし) | 0人 (0%) |

Q5 費用の負担はどの程度を希望されますか。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1. 内容により違う | 94人 (76%) |
| 2. 材料代程度 (500円程) なら良い | 62人 (50%) |
| 3. 無料 | 34人 (27%) |
| 4. その他 (なし) | 0人 (0%) |

3) ニーズ調査の結果

①参加してみたいものとしては、座談会・若者との交流の希望者が多かった。高齢者の方は、月に1回の老人会の定例会を楽しみにされている方が多く、子どもや若者との交流を望まれている。また、独居の高齢者においては、家から出る機会も少ないため、座談会の開催は、お話できる格好の機会となると考える。

②講話・勉強会の内容として希望が多かったのは、「レクリエーション」、「悪徳商法について」であった。老人会でも行われているレクリエーションだが、人気が高い。また、生活に身近な問題となる悪徳商法

の対処法にも興味を示されている。

- ③学生との交流に関しては、「レクリエーション」、「マッサージ」、「スポーツ」の要望が多かった。スキニップを図ることができるマッサージも人気が高いことがわかった。

6. 江北町上小田地区の「高齢者サロン」への参加計画

平成 25 年度は、5 月のアンケート調査を踏まえ、10 月に江北町の担当職員と協議を行い、本学科では、授業の一環として「高齢者サロン」事業に参加することとした。会場の改装工事の為、11 月下旬からのスタートとなったため、本研究では、実施計画を記載し、実施内容とその効果については、紀要（その 2）で検証することとする。

1) 参加学生

西九州大学短期大学部 生活福祉学科 1. 2 年及び専攻科保育福祉専攻生

2) 実施期間

平成 25 年 11 月 25 日（月）から平成 26 年 1 月 31 日（金）
※前半は月曜日（13:30～15:00）、後半は金曜日（10:00～11:30）

3) 場所

江北町上小田地区石原 元井上百貨店

4) 実施内容

レクリエーションを中心とした学生と高齢者との交流

表 1 2 年生・専攻科保育福祉専攻の実施計画

	Ⅲ・Ⅳ限 [13:30～15:00]
1	11 月 25 日（月）
2	12 月 2 日（月）
3	12 月 9 日（月）
4	12 月 16 日（月）
5	1 月 20 日（月）

表 2 1 年生の実施計画

	Ⅰ・Ⅱ限 [10:00～11:30]
1	1 月 10 日（金）
2	1 月 17 日（金）
3	1 月 24 日（金）
4	1 月 31 日（金）

※それぞれの回に担当教員が 1 名同行する

5) 実施に向けた取り組み

○参加の目的としては

- ①過疎化の現状と元気高齢者との世代間交流を図りコミュニケーション能力を高める。
- ②高齢者の生きがいや介護予防事業等を理解する。
- ③高齢者支援事業に対する企画力や実践力を身につける。
- ④チームワークの重要性を学ぶ。
- ⑤体験することによる達成感や気づきなどを学ぶ。

○実施方法

高齢者の要望を踏まえ、担当グループごとに、学生がレクリエーションを主に計画した内容について、授業時にリハーサルを実施する。担当グループ以外の学生は参加高齢者の役をし、教員や学生がリハーサルの結果について評価し必要があれば計画を見直す。実施当日は、本学から江北町まで車で 40 分程度かかるため、公用車を手配する。

7. まとめ

平成 24 年度に、江北町から「上小田地区における空き家・空き店舗再生調査事業」に学生の協力依頼があり、この調査事業に参加した学生は、平成 22 年度入学の 2 年生で、平成 24 年の 3 月に卒業し現在は施設などに就職している。

この調査事業の結果から、参加された高齢者のアンケートによると、図－1 に示すように「高齢者サロン」の開設については、良いと回答された方は 97% で悪いと答えた方はいなかった。また、「i-pad が面白かった」「体操がよかった」という意見から、元気高齢者は、まだまだ新しいものに挑戦したい気持ちがあることや、健康のため体を動かすような機会が欲しいということがうかがえる。また、図－3 に示すように、学生との交流に関しては、81% の方が良いと回答されている。図－4 の「来年以降も地域外（学生含）との交流を希望するかどうか」の質問には、75% の方が「交流を希望している」と回答されている。元気な高齢者は、まだまだ何らかの活動をしたいという気持ちがあることと、地域の活性化を望んでおられることがうかがえる。

調査事業に参加した学生へのアンケートによると、事業に参加してみて「やりがいがあった」と答えた学生は全員であった。高齢者と直接触れ合うことにより、高齢者からいろいろ教えてもらったり、また、i-pad の使用については、学生が高齢者に教えたり、コミュニケーションを図りながら交流を深めることができたようだ。世代間の交流する場に参加できたことは、学生にとっては、元気あるいは虚弱高齢者がどのようなことを求めているのかについて少しは理解を深めることができたのではなか

ろうか。また、高齢者にとっても若い者と交流したり、新しいものを覚えたりすることは、介護予防に繋がるよい機会になると思う。その他、学生の感想として「地域の人々が温かく交流しやすい」という意見や、「坂が多かったり店が少なく、交通安全面や環境面での課題がある」といった意見から、学生は過疎地域の実態を実際に見たり体験することでいろいろな気づきがあり、多くを学ぶことができたのではなかろうかと考える。

江北町は、平成 25 年度の活動に向けて「地域おこし協力隊」隊員を 2 名募集し、平成 25 年からこの 2 名を中心に、上小田商店街の空き店舗などを利用し、高齢者の憩いの場所づくりや子どもの「学び・遊び」を支援する活動を現在展開されている。「地域おこし協力隊」とは、総務省の過疎対策の一環として地方自治体の委嘱により全国的に過疎化地域で活動している。

平成 25 年度の江北町の地域活性化事業に関して本学の学生の関りについては、5 月に学生に求めることについて高齢者の要望等に関するニーズ調査を実施し、9 月に江北町と話し合いが行われた。その結果、本学科は、「高齢者サロン」の参加を希望し、高齢者の要望が多かったレクリエーションを主に実施計画を立てたが、旧店舗の改装の為 11 月下旬からの実施となった。現在、前述した計画に沿って、2 年生、1 年生、専攻科保育福祉専攻の学生が「高齢者サロン」で実施中であるため、本研究では、平成 24 年度に実施されたこの事業に向けての検証のための調査事業に関する内容を主に報告する。

参考・引用文献

- 1) 平成 25 年度版 厚生労働白書
- 2) 西村洋子 編集 最新介護福祉全書「介護の基本」
(2012) メヂカルフレンド社
- 3) 内閣府ホームページ
- 4) 江北町「特定地域再生事業費補助金事業」の申請書